



報道関係者各位

株式会社コンピュータ・ニュース社
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-25-1
TEL 03-3818-2661 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします。

BCN総研 谷古宇（ヤコウ）
<http://computernews.com/marketview>

2000年第2四半期のPC店頭市場は 前年比59.6%増の142万台に達する見込み

コンピュータの週刊専門紙である「BCN」（BUSINESSコンピュータニュース）を発行する株式会社コンピュータ・ニュース社は、東名阪のパソコン大手販売会社9社（エイデン、グッドウィル、コンプ100満ボルト、コンプマート、CSKエレクトロニクス＝T・ZONE、スタンバイ、ソフマップ、九十九電機、ニノミヤ＝50音順）284店舗の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキング（システム名：BCN Market View）を公表しています。このデータをもとに、BCNの市場調査部門であるBCN総研ではPCリテール市場の動向分析を行っています。

株式会社コンピュータ・ニュース社（本社：東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男）の市場調査部門であるBCN総研のまとめによると、店頭市場における2000年第1四半期のPC販売台数は、前年同期比55.3%増の138万台を記録した。低価格PCの普及、2000年問題の反動、「Windows2000」の発売が第1四半期の好調を支えた。この勢いは第2四半期も持続する見込みだ。BCN総研では、ボーナス商戦の前倒しや景気の回復基調、インターネット需要の更なる拡大などの要因から、前年同期比59.6%増の142万台に達すると予測している。このペースを持続していけば、2000年暦年では、620万台に迫る販売台数が見込める。

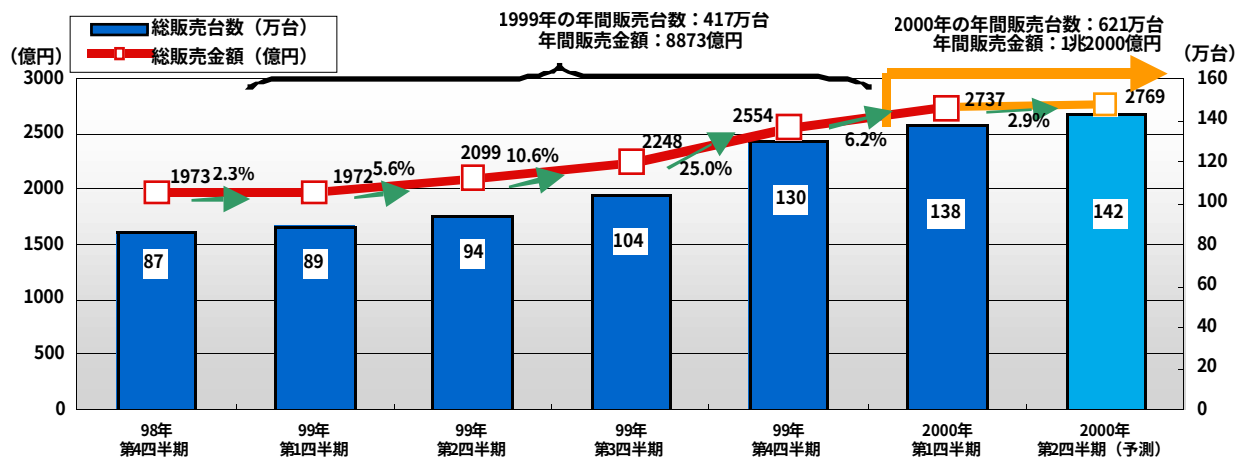
BCN総研のまとめによると、国内店頭市場における2000年第1四半期（1月～3月）のPC販売台数は、前年同期比55.3%増の138万台となった。前期比でも6.2%増となり、1998年第4四半期から1999年第1四半期の伸び率を3.9ポイント上回る高成長を記録した。金額ベースでは、低価格PCの増加で台数ほどの伸びはないが、前年同期比38.8%増の2,737億円と依然、高成長を続けている。

好調の背景として、低価格PCの普及、2000年問題の反動、「Windows2000」の発売の3点があげられる。多くのショップから「2000年問題の反動から、1、2月のPC販売が予想以上の伸びとなった」というコメントがあがっている。「Windows2000の発売に伴って、SOHOを中心とした法人ユーザーの駆け込み発注が相次いだ」との声を寄せるショップも多かった。低価格PCが市場に与えた影響も大きく、デスクトップ、ノートを合わせたPC全体で16万円以下の販売構成比率は99年第4四半期以降30%以上を占めるようになっている。

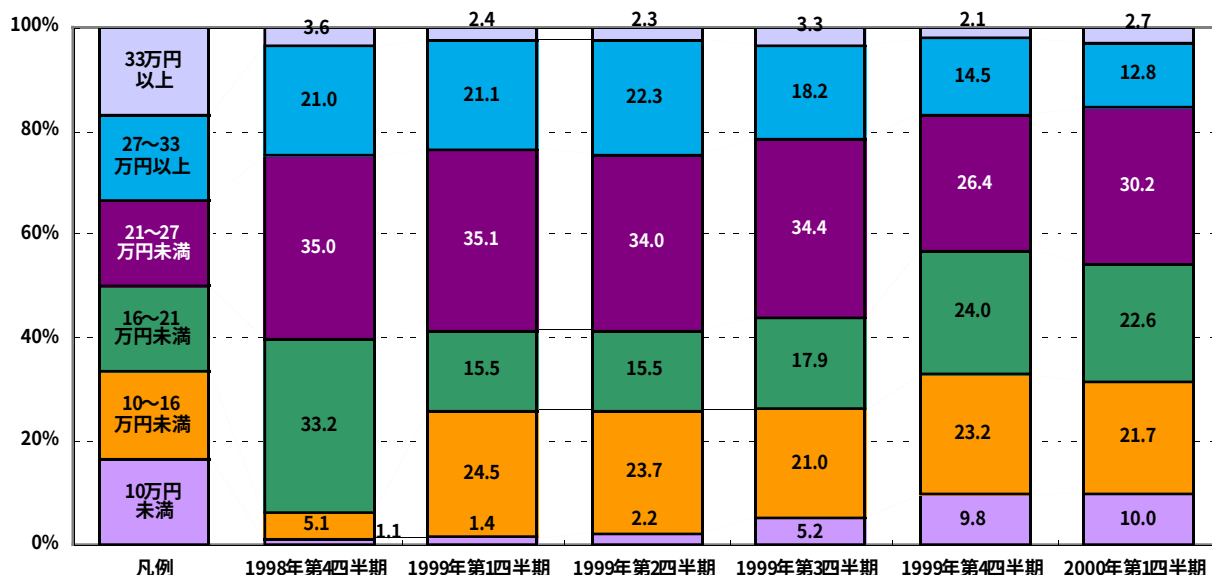
第2四半期（4月～6月）も引き続き好調を維持し、前年同期比59.6%増の142万台、同27.3%増の2,769億円に達すると予測している。

ソニーや日本IBMのように新商品の発売時期を前倒しにするメーカーが増えており、夏のボーナス商戦は例年よりも早い第2四半期後半に幕が開くとみられる。三和総合研究所の発表では2000年夏のボーナス支給額は、3年ぶりに前年を0.3%上回るとの予測もある。緩やかながらも景気が回復傾向を示していることはPC販売にプラスに作用するだろう。また、PS2で成功を収めたネットでの予約販売やオークションサイトの増加など、インターネット需要はさらに加速する見込みである。さらに、発売以来ヒットを続けているソニーの「VAIO J」やNECの「LaVieNX LW450J/24DA」のようなAV機器との融合を図った商品は、新たなPCの活用法を消費者に定着させていくと考えられる。

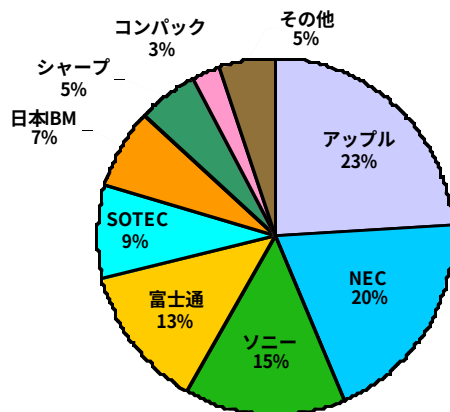
PCの四半期別総販売台数・金額（国内店頭市場）



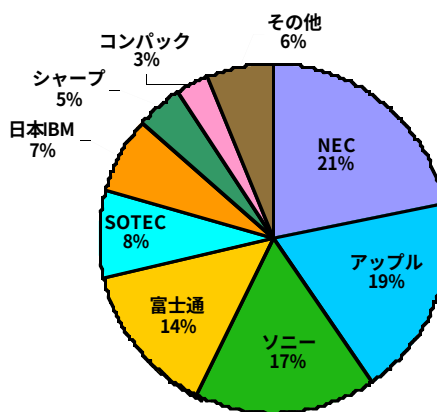
PCの四半期別販売価格帯別構成比率



1999年第4四半期



2000年第1四半期



(BCNランキング)